



田頭数蔵さんが、ご自身の凄惨な被爆体験を胸のうちにとどめながら「ICAN」のバラを丹念に作ってくださったことに、ICANの運動を進める世界中のキャンペーンナーたちは感激しています。先週末に、パリでICANのフォーラムが開かれ、世界各国から300名が集まりました。それへの出席のために、本日の多摩市でのバラの苗木のお披露目に同席できないことをどうぞお許してください。

パリのフォーラムでは、被爆75周年にあたる今年、核兵器禁止条約を必ずや発効させようと話し合いました。バラが咲き始めたら、その姿を世界中のキャンペーンナーたちの目に必ず届けます。それが、核兵器廃絶への運動を進める力に大きな力になります。

多摩市および恵泉女学園大学には、2017年のICANのノーベル平和賞授賞式にあたって被爆者をオスロに送り出すための募金活動で本当にお世話になりました。今回、バラ「ICAN」を同市と同大学が受け入れ、育ててくださることに心より御礼申し上げます。

被爆者の思いを世界に届けながら、被爆国の市民である私たち一人ひとりが自分たちにできることを考えていく。このバラが美しく咲き誇り、多くの人たちの目にとまって、そのような機会を作っていくことを期待しています。

2020年2月17日
核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）
国際運営委員
ピースボート共同代表

A handwritten signature in black ink, which appears to read "川崎 哲" (Kawasaki Kazuhiko).

川崎哲